

### 1. 「新型」コロナで考える (小野寺会長挨拶)

日本では2019年からずっと「新型コロナ」と命名したまま2年になる。あいかわらず「新型コロナ」と言い続けている。その間にウイルスの変異が進み今はδ型が席卷しつつある。よそではcovid-19と通常言っている。日本式の「新型」でもいいと感じる。Covid-19-δもうすぐ古くなる。また変異し新型コロナになるのだ。来年の今頃、収束して適切な名前が付けられる？ワクチンは2回接種でもまだ不完全、3回目の接種を打とうという報道もある、ちなみに私は1回目もまだである。新しい国産ワクチンも来年には出てきそうである。この猛威はとどまるところ知らずに拡大していくのか。対面活動が待ち遠しいこの頃である。



### 2. 6月・7月の事業内容及び8月の予定

状況 新型コロナウイルスの影響で活動が昨年と同様に限定された内容になっている。岩手県での感染者数も減らない中、多人数での対面形式事業（講演会、企業訪問、サロン、企業紹介講演会等）はできない状況が続いている。このため、相談会を中心とした活動になっている。

#### ①相談会実施及び実施予定

6月 6/7 (月) 6/10 (木) 6/23 (水) 6/25 (金)

7月 7/5 (月) 7/8 (木)

8月 8/25 (水) 8/27 (金)

拡大相談会 7/31 (土) 上田公民館で開催

内容 シニアの会活動の方向性について議論

### 3. 会員紹介

#### 新規入会者の紹介

宮下慶一郎さんが新しく会員となりました。

山田元さん

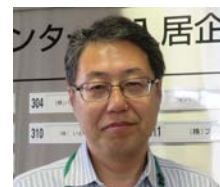
某錠前メーカーで軽金属の鋳造の仕事を長くやってきました。失敗経験も数々あるので、なにがしかお役に立てることが有ればよいなということで会に参加しています。(残念ながら、今までの相談件数は0ですが)2021年の会の活動は、新型コロナウイルス感染防止のため、大半が、



見送りあるいは規模の縮小を余儀なくされています。2020 東京オリンピックも、1 年の開催延期後も正常な競技運営は難しいようです。ワクチン接種の拡大や治療薬の開発を待つより手は無いようです。集まったの飲食はダメとの事で、個人的な楽しみの一つは消えました。ならば、趣味のアユ釣りを存分に楽しもうと準備していました。しかし、解禁直前の 6 月中旬に右脚にしびれを感じ始め、歩くのが辛くなり病院にいったところ、脊柱管狭窄症とのこと。「老化によるもので、なかなか治らないよ」との医師の言。体幹を鍛えてストレッチを続けるとしびれや痛みが軽くなるとの経験者の話もあるが、数か月以上はかかるとのこと。「この治療法が効くよ」という情報をお持ちの方、ぜひ教えてください。やはり、健康第一ですね。

沼田秀彦さん

岩手大学教育学部を卒業後、盛岡市役所で福祉や総務など経験し、定年前の 10 年程は商工分野を担当していました。2019 年春から盛岡市産学官連携研究センターにお世話になっており、入居している企業や市内企業の皆様からの相談に対応しているほか、週 1 回のメールを配信しています。コロナ禍のため思うように活動できませんが、企業の現場にお邪魔したり、電話やメールのほか訪ねて来られる皆様とマスク越しでお話していると、これまでのご縁を感じせざるを得ません。仕事場は、岩大理工学部内にあり野球場に隣接して、秀峰岩手山を背景に大学野球部の練習を見たりしますが、大谷翔平ばりの強打者が誕生しないかと願ったりしています。



#### 4. コラム 『大槌物語』

6 月の中旬に、みちのくの紀伊国屋文左衛門と言われた大富豪、吉里吉里善兵衛（前川善兵衛）の事を調べに大槌に行ってきた。地理的には釜石の北側に位置し、以前井上ひさし氏著の「吉里吉里人」で一躍脚光を浴びた場所でもある。この吉里吉里の呼び名の由来は、アイヌ語で白い砂浜を意味すると言われ、この砂浜を歩くと「キリキリ」と音がするとか？ さらに、大槌の名前の由来を調べると、もっとも有力な説は、アイヌ語で「オオ・シツ・ウツ・ベツ」がなまって、大槌になったという説。意味は『川尻に、いつも鮭止め掛ける・川』だそう。さらに大槌湾内には「小槌川(こづちがわ)」と「大槌川(おおづちがわ)」という 2 本の川がそそいでいるが、金偏と木偏とツチの漢字が違って、「鬼打ち伝説」と呼ばれる民話に由来しているようだ。昔、この地に住んでいたかじ屋のもとに、鬼が現れ仕事の邪魔をするようになった。怒ったかじ屋が、「おおきなつち(木製)」と「ちいさなつち(鉄製)」で鬼を追い払い、その「つち」を川



【蓬莱島】

に捨て、鉄でできたつち（小鎚）は川底に沈み、木でできたつち（大槌）は浮かんだまま海に流れていき、その後潮によって岸に戻され、北の川筋の河口に漂着した。そこからそれぞれの川が小鎚川、大槌川と呼ばれるようになったようだ。この大槌にはもう一つ井上ひさし氏由来のものがある。それは「蓬莱島（ほうらいじま）」である。筆者が幼少のころTVで流れていた「ひょっこりひょうたん島」のモデルだと言われる小さな小島である。これは氏が学生の頃、母親が釜石で仕事をしていた関係で、隣町を訪れたものと推測する。又この蓬莱島を見下ろす高台には意外な建物が立っていた。東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターである。このセンターは「これまで蓄積してきた共同利用研究の成果とともに、地震・津波による海洋環境や生態系の変化に関する研究成果を世界に向けて発信するとともに、沿岸海洋研究の国際ネットワークの中核を担うことを目指しています」（ホームページより引用）という理念の元、2018年に再建された建物で、2021年4月に展示資料館「海の勉強室」が新たに開設されたようだ。シニアの会でもぜひお邪魔したいものである。最後に大槌は海産物も豊富である。当然町内のグルメスポットも多くある。今回はその中で国道45号線沿いの海鮮料理のお店「さんずろ屋」で食事をとった。人気店らしく平日にもかかわらず結構混んでいた。磯ラーメンとミニうに丼のセットをたのんだ。海鮮丼もボリュームたっぷりであり、ぜひ近くに行った際は立ち寄ってみて下さい。



【磯ラーメンのセット】

## 5. 新たな会員の募集について

新規会員の紹介をお願い致します。会員増は会員の皆様の人脈日よりです。

本会報を使っても構いませんので、お知り合いの方へのお声かけをお願いいたします。

連絡先 事務局 志田満

携帯 090-2791-1803 e-mail mitshida.1029@docomonet.jp

## 6. 編集後記

7月に三陸道を気仙沼迄行って、新しくできた気仙沼大橋を通ってきた。3月に開通したようです。これで宮古から仙台までストレートに行けることとなります。また、常磐道を使えば東京までも下道を降りずに行けることになる。久慈と野田の間も今年中に開通する予定で、仙台から八戸まで自動車専用道で行けることとなります。物流の流れも、東北道から三陸道に変ると言われている。課題は流れる車を如何にしてそれぞれに地域に降りてもらうかだ。地域の魅力をうまく発信していく事が大事になって来そうだ。



【気仙沼大橋】